

うちこしかみいけ うちこししもいけ
打越上池・打越下池



打越上池

貯水量;194,000m³

築造年代;不明



打越下池

貯水量;249,000m³

築造年代;文政十二年(1829年)

亀越池築造以前にあった打越上池(古池)は、まんのう町長尾にある大福井、小福井の出水を水源とする小さなため池に過ぎませんでした。

その後亀越池の築造により土器川を經由して札の辻堰から打越池掛井手(導水路)を通して打越上池(古池)に取水するようになりました。

上池に溜められた水は順次下の池に配水され、やがて小津森池、大窪池、仁池等を満たし流域の田畑を潤していきました。

寛文十二年(1672年)の小津森池の築造後約140年を経た文化七年(1810年)に小津森池の第1回嵩上げ工事が行われ、この工事に尽力した岡田上の木村又左衛門により「打越下池」が立案され、その嫡子木村甚三郎の手によって文政十二年(1829年)見事完成しました。

親子二代にわたって地方開発に尽くした功績は赤坂の顕彰碑や池之宮神社にその名が刻され長く名誉が称えられています。

上池・下池を合わせた貯水量は443,000m³と小津森池に次ぐ大きさとなり岡田4地区のため池約20個の水源池として広く岡田の田畑を潤しています。また、香川用水の完成により(昭和50年)亀越池の水と打越池に入る香川用水の水との間に種々の協議がなされ(亀越池の水利転換等)、難しい水利慣行も漸次改善されてきています。